

## 令和3年度一橋大学入学式 祝辞

令和3年4月4日  
三菱地所株式会社 取締役会長  
一般社団法人 如水会理事長  
杉山 博孝

新入生の皆さん、一橋大学へのご入学、誠におめでとうございます。コロナ下で大変なご苦労の中、目標とした一橋大学に入学されたことに心より敬意を表します。

私は、一橋大学の卒業生・在学生による同窓会組織である「如水会」理事長の杉山です。1974年に経済学部を卒業し、三菱地所に入社して以来、現在に至っております。如水会を代表して、そして皆さんの先輩として、ここに皆さんをお迎えできることを大変嬉しく思っております。

一橋大学は言うまでもなく、社会科学の総合大学であり、その特徴として、少人数による充実したゼミ活動、2つめとして学部間の垣根が低く、他学部の分野を含めて総合的に学べること、3つめとして留学制度が充実しているということが挙げられます。如水会としても留学制度を積極的に支援しています。このような恵まれた環境を活かして、ぜひ、広範な知識、教養、グローバル感覚を磨いていっていただきたいと思います。

さて、コロナウイルス感染防止の観点から、今年はビデオでの挨拶となりました。皆さんに向けたメッセージとして3点お話しさせていただきます。

1つ目は、「この4年間をいかに意義あるものにしていくか」ということです。一橋大学で学べることに希望で胸を躍らせているのではと思います。大学で「何を学ぶのか」これも非常に重要なことですが、その先の人生を考えたときに、大学で「何のために学ぶのか」を考える、これも大変重要なことだと思います。皆さんには4年間という時間が等しく与えられますが、それを有効に活かすか否かは、皆さん1人ひとりにかかっています。ぜひ有意義な4年間になるよう、取り組んでいただきたいと思います。

2つ目は、「自分という人間をつくる場としてほしい」ということです。大学の4年間というのは「自らの人生を切り拓くための基礎づくり」、そのための大切な期間だと思います。私自身が長らく身をおいてきたビジネス社会をはじめとして、大学生活を終えた後に皆さんが出ていく社会は、時に苛烈で、容赦なく皆さんの「人間力」が試される世界となります。

これから先の長い人生を生き抜き、その中で「何事かを成す」。そのための4年間は、まさに「その基礎固めをする」「自分という人間をつくる」大切な時間になると思います。大学生活という場が皆さんの切り拓いていく将来に向けた土台となるよう、この「場」を存分に活用していただきたいと願っています。

3つ目は、「生涯の友となる仲間づくり」です。「仲間づくり」に関してはあえて申し上げる必要もないと思いますが、如水会は、大学を卒業し何年経っても、会員1人ひとりにとってかけがえのない貴重な場になっています。新入生の皆さんにはまだピンとこないかもしれませんが、大学時代に苦楽を共にした仲間は、社会に進んだ後も生涯の友となります。出会い、関わり合いによって、人は成長していくものですが、お互いに切磋琢磨し、高め合える「仲間づくり」ができるのも大学生活ならではの貴重なことだと思います。大学生活を通じて沢山の素晴らしい「仲間」を作っていただきたいと思います。

コロナ下にあって大学生活を軌道に乗せていくのもまだまだ大変でしょうが、もうしばらくの辛抱だと思います。これから始まる大学生活が皆さんにとって充実したものとなりますよう、心よりお祈り申し上げます。